

3月7日 (Fri) Budapest

【巡検プログラム】

8:40	ホテル発	
8:45	地下鉄M3号線 Dózsa Gy. út. 駅 → Ferenciek tere 駅 路線バス Ferenciek tere → Gellért温泉前	
9:10	ゲッレルトの丘登山	①
9:15	Sziklakápolna 見学	
9:35	Citadella 見学	
10:15	路線バス Gellért温泉前 → Deák F. tér.	
11:00	バス Deák F. tér. → Memento Park	
11:25	MEMENTO PARK 見学	②
13:00	バス Memento Park → Deák F. tér.	
13:30	Deák F. tér. にて昼食	
14:15	地下鉄M3号線 Deák F. tér. 駅 → Ferenc körút. 駅	
14:30	工芸美術館の外観見学	③
14:45	Corvin Mozi 見学	④
14:50	大規模再開発の工事現場の見学	⑤
	→ 第8区：ロマ居住地区見学	⑥
	(Kisfaludy u. → Práter u. → Futó u. → Horvath Mihaly tér. → Tavaszmező u. →)	
15:15	Roma Parlamentの外観見学	
15:25	Matyas tér. の外観見学	
15:40	Dankó u. 9番地：ホームレス救済センター外観見学 Dankó u. 11番地：ソーシャルワーカー養成所 (Magdolna u. → Dobozi u. →)	
16:05	Kobanyai út. 沿い中国人市場見学	⑦
16:25	路線バス Orczy tér. → Kálvin tér. → Deák F. tér.	
16:50	ユダヤ人ゲットー跡の見学 (Dob u. →)	⑧
17:00	スイス領事が1944年に多くのユダヤ人を救ったという記念プレート見学	
17:05	Kazinczy u. 沿いシナゴーク外観見学	
17:10	「ユダヤ」のイメージを用いた芸術品店	
17:15	路線バス Astoria → Gellért温泉前	
17:30	Gellért温泉	⑨

【主な巡検ルート】

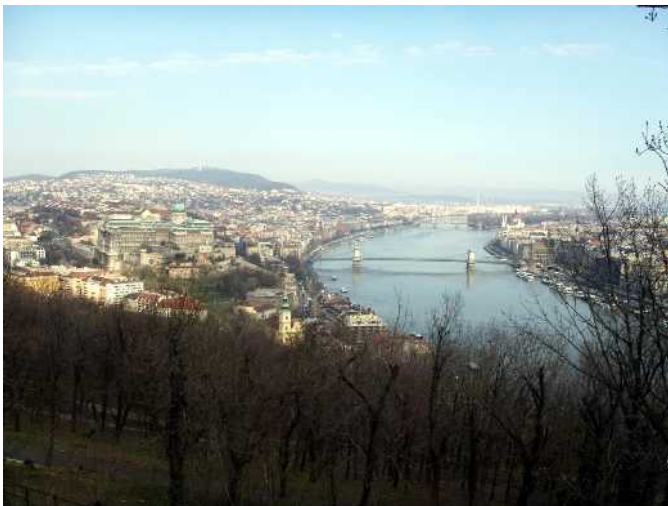


【巡検内容】

① ゲッレルトの丘

ペスト地区から自由橋を渡ると、標高235mのゲッレルトの丘がそびえている。山頂の「ツイタデラ」と呼ばれる要塞は、もともと1848年の三月革命の際に、ブダペスト市民を監視するためにハプスブルク家によって建てられものだが、その後ナチス、ソ連軍によって使用されてきた。要塞の壁面には、無数の銃痕が残されている。民主化後の1990年前後には、要塞の西端に勝利の女神像が建てられ、ペスト地区を見下ろしている。

丘からは、ブダペスト市街を一望することができる。北方を眺めると、左手に王宮、ドナウ川を挟んで右手に国会議事堂を見下ろすことができる。また、その奥にはマルギット島やバラの丘の南向き斜面に広がる高級住宅地区を見ることが出来る。西方を眺めると、ペスト市街地が広がっている。建物が密集した旧市街地やインナーシティと、その奥に建ち並ぶ社会主義時代の住宅団地のコントラストが特徴的である。南方には、かつての工業地域で、現在再開発が進行している地区を見ることが出来る。ウィーンからブダペストに向かう車窓から見ることができたIBM社やHP社が立地する再開発地区の様子も見ることができた。



② MEMENTO PARK

ブダペスト南部、第22区に位置するMEMENTO PARKには、レーニンやマルクス、ソビエトの英雄、社会主義者などの彫像が野外展示されている。1919年にハンガリー・ソビエト共和国を樹立した共産党の指導者ベーラ・クンの指揮する記念碑や、マジャール人とソ連の軍人が握手する像など、ハンガリーの地域性を反映したものも多い。巨大な銅像群からは、社会主義国であった、私たちとは異なるイデオロギーによる国政を経験した国であったという歴史を改めて認識させられた。

1949年にFelvonulási Squareに建てられ、1956年10月23日のハンガリー動乱によって引き倒された「スターリンの足のみの銅像」の展示の整備が進められていることから、社会主義からの解放が現在のハンガリーにとって重要な意味を有していることを感じさせられた。



③ 工芸美術館

ハンガリーのユーゲント様式建築の巨匠レヒネル・エデンによる1896年の作品。壁面や屋根にはハンガリー南部のペーチ近くの窯業であるジョルナイ焼のタイルが用いられている。正面玄関の右手には、レヒネル・エデンの銅像が置かれている。



④ Corvin Mozi (コルヴィン劇場)

ハンガリーで最も歴史のある劇場であるとともに、1956年10～11月に反ソ連・改革要求を掲げて起こったハンガリー動乱の発起地となった劇場。正面玄関の右手には、ハンガリー国旗とハンガリー動乱の記念物が設けられている。

ハンガリー動乱では、ソ連軍との戦闘によってペスト地区に多くの被害をもたらされたため、建て替えが遅れているロマ居住地区などでは、現在でも銃痕が残る建物が存在している。ハンガリー動乱の最初のデモが行われた10月23日は、1989年以後、国民記念日となっている。



⑤ 大規模再開発の工事現場

第8区には、高齢者や失業者、また、東駅に近いことから外国人やロマの人々が多く居住しており、平均生活水準がブダペストで最も低い地区となっている。そのため、行政中心となって、老朽化した建物を取り壊し、大規模な建て替えを行うことで再開発を進めている。再開発の対象は、区所有の建物が多く、建設後に売却することで工費が確保されている。

右の写真のような大規模な再開発では、住民の入れ替わりが起こり、将来的にはジェントリフィケーションにつながる可能性を有している。しかし、従来居住していた人々のコミュニティが失われることや、彼らの新たな居住地の確保など、さまざまな問題も存在していると思われる。

一方で、個人所有の小規模な建物の再開発では、地区のイメージの悪さや近隣住民の社会階層の低さから富裕層の購買は消極的であり、期待されるような住民の入れ替わりが起こっていない場合が多い。右下の写真のように、建て替えのために取り壊しが行われたが、需要が少ないために建物の建設が進まない土地も少なくない。



⑥ ロマ居住地区

ロマの人々や失業者など、社会階層の低い人々が居住している地区は、ブダペスト市街地の他の地区とは外観が大きく異なっている。建て替えが行われていないため、右の写真のように黒く汚れ、壁面の装飾が崩れかかっている建物が多い。コルヴィン劇場から近いこともあり、ハンガリー動乱の銃痕が残されている建物も存在している。Futó通りでは、1990年代末に既存の建物の改修による小規模な再開発が行われた。下の写真のように壁面がきれいな色に塗られ、街路は石畳の舗装が施されて、街灯が設置されている。Práter通りから入ると、全く異なる地区に入ったような印象を受ける外観である。しかし、建て替えが行われない建物を取り残されていたり、周囲の環境が改善されないこともあり、ジェントリフィケーションは起こっていない。右下のように、売り出しの看板が設置されていることから、売却が進んでいない現状を読み取ることができる。



Tavaszmező通りには、ロマの政治団体である「Roma Parlament」の事務局が立地している。建物の外観は周囲の建物と同じようにあまり整備されていない。ロマの政治団体は、Roma Parlament以外にも存在しているが、相互の連携が進んでいないことが問題となっている。

その先には、建物が改修されたギムナジウムが立地している。下の写真のように、壁面にはタイルが貼られ、アーチ状の窓が設けられるなど、周囲の建物とは異なる印象を受ける建物であった。ギムナジウムのように公的な建物は、積極的に改修が進められている。

Tavaszmező通りの先に設けられたMátyás広場は、再開発が進められている。再開発が行われる以前は、ブダペストで最も治安の悪い広場の一つであったが、現在では徐々に改善されてきている。人が集う場を目指して再開発が行われている一方で、右下の写真のように、フェンスに囲まれている様子からは治安の悪さが感じられた。



Dankó通りには、9番地のホームレス救済センター、10番地の作業場、11番地のソーシャルワーカー養成所が建ち並んでいる。ホームレス救済センターも前には、下の写真のように人が集まっている。ホームレスの問題はこの地区に限った問題ではないが、救済センターの存在は、地域のイメージ低下の要因になっていると思われる。

右の写真は、ロマの人々が居住しているアパートの内部の様子である。壁面は崩れ、中庭に通じる扉は開け放たれている建物の内部は、木板によって支えられている。このような現状から、ロマの居住環境の改善がいかに困難な課題であるかを認識させられた。



⑦ 中国人市場

Kőbányai通りの両側に、線路沿いの空き地（右の写真）、機械工場の跡地を利用した中国人市場が立地している。市が中国人の市場として認可している。多くの人々は自動車で買い物に来ているようで、駐車場が設けられている。

市場の一角には、同郷出身者の相互扶助組織である「福建同郷会」の事務所が立地している。市場はいまや、チャイナタウン化しつつあり、不法滞在者も多く存在していると考えられるが、市当局も実態を把握しきれていないと考えられる。市場の入口には中国人が立ちおり、内部に立ち入りにくい雰囲気をもっている。現在、この中国人市場は外国人コミュニティが周囲とはホスト社会とは画された空間を有していく過程にあるのではないかと考えられる。



⑧ ユダヤ人ゲットー跡

Dohány通りのシナゴークの裏手に広がるユダヤ人ゲットー跡では、建築様式からゲットーとしての名残を見つけることができる。内側に円形の空洞を持つ建物や、上部にアーチ状の装飾を窓などがその例である。右の写真はDob通り沿いの街並みである。また、スイス領事が1944年に多くのユダヤ人を救ったという記念プレートや、下の写真のようなKÖSER料理店の看板などからも、ユダヤ人ゲットーであったことが分かる。シナゴーク周辺にはユダヤのイメージを利用した芸術品店も存在しており、歴史が地域資源となっていることが分かる。

このようにゲットーとしての歴史を残している一方で、再開発によって歴史が失われつつある。第7区のゲットー跡では、外資を積極的に取り入れることによって、再開発を進めている。そのため、右下の写真のように大規模な取り壊しが行われ、建て替えられているところも少なくない。現在、ゲットーではなくなっている地区において、過去の景観を残すべきかについては議論が必要であると思われるが、文化施設であるシナゴークなどを孤立させないためにも、周囲と一体となった整備が必要であると考えられる。



⑨ ゲッレールト温泉

ブダ地区には多くの温泉が立地している。温泉を好んだオスマン帝国による占領時代に、多くの温泉が発見された。

ゲッレールト温泉はブダで最も規模が大きい温泉である。ダヌビウス・ホテル・ゲッレールトに併設されており、温泉のほかにプールがある。建物は、美しいユーゲント様式であり、華やかな雰囲気である。今回の巡検では、プールを利用した。

